

## 私たちの町「府中町」と共に生きる

奈良教育大学 学部4回生 藤井愛華

## 1. 単元名 過去から学ぶ 私たちの町府中町と共に生きる

## 2. 単元の目標

- ・歴史や地形から、府中町が水害の起きやすい地域であることを自分の言葉で説明することができる。  
(知識・技能)
- ・水害が実際起きた場合、自分がどのように行動すべきか考えることができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- ・町の先人たちの取り組みや行政の働きに興味を持ち、自ら積極的に学ぼうとする。  
(主体的に取り組む態度)

## 3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
歴史や地形から、府中町が水害の起きやすい地域であることを自分の言葉で説明することができる。	水害が実際起きた場合、自分がどのように行動すべきか考えることができる。	町の先人たちの取り組みや行政の働きに興味を持ち、自ら積極的に学ぼうとする。

## 4. 単元について

## 【教材観】

総合の学習指導要領では、第3章各学校において定める目標及び内容 第3節各学校において定める目標及び内容の取扱い(5) 地域や学校の特色に応じた課題の「まちづくり」、「防災」の部分に該当する。

広島暮らし～広島交流・定住ポータルサイト～では、府中町は「豊かな自然と市街地の利便性の両方を兼ね備えた住み良い町」とされている。日本で一番人口の多い町として知られており、現在人口は52224人(府中町HPより2019.1.1現在)である。周囲を広島市に囲まれ、安芸郡の飛び地であり、都会が近く広島駅にもJRや車、バスなど様々な交通手段があり、車なら15～20分程でアクセスが良く、行政機関や病院、買い物など、非常に充実しており、移転者も多い一方で永住する人も多い町です。町内にある大型ショッピングモールには映画館も併設されており、町内外から多くの人が集まる。マツダ株式会社の本社もあり、町内の子どもたちは小さな時から社会見学などで訪れ身近な存在である。また、自然の渓谷を生かした、水分(みくまり)峡森林公園があり、四季を通じて散策やハイキングも楽しむことが出来る。

2018年7月の豪雨では、7月6日に町内にある府中大川大須水位が避難判断水位超過し、府中大川周辺地域

に河川氾濫の恐れで避難準備・高齢者等避難開始発令された。その後も災害警戒体制がひかれ、土砂災害警戒情報を町が発信、災害対策本部も設置され災害非常体制となった。その後、府中大川大須水位は氾濫危険水位超過し、町内全域に避難勧告（土砂）発令された。さらにその後、府中大川周辺地区には避難勧告（浸水）も発令されている。大雨特別警報が出された後は、町内全域の避難指示は（緊急）に変えられた。翌日7月7日には、大雨特別警報解除され、大雨警報に変えられ、洪水警報も解除された。その二日後の7月9日には土砂災害警戒情報も解除、大雨警報も解除され、注意報となっていた。避難指示（緊急）も解除され、一部避難勧告が継続されている状況であった。（※清水ヶ丘2、桜ヶ丘12、みくまり一丁目1～5、柳ヶ丘85番街区で継続。）大雨注意報も解除された。しかしその翌日の7月10日11時頃榎川の氾濫が発生し、府中小学校区、北小学校区、東小学校区の一部に再び避難指示（緊急）発令され、その後洪水警報が出された。避難勧告（土砂）は8月2日まで続き、災害対策本部廃止は8月10日であった。避難者は累計(8月4日全避難所閉鎖まで):2,258人(最大:7月6日1,309人)で、被害状況は(8月22日現在)人的被害死亡0人、重傷0人、軽傷2人。建物被害が住家全壊2件、半壊17件、一部損壊50件、床上浸水7件、床下浸水54件。その他施設が非住家6件、公共施設など2件。インフラ被害は道路町道総社跡水分線ほか8か所、橋梁(りょう)御衣尾橋、無名橋No.9。河川は榎川、山田川。砂防設備などはみくまり堰堤ほか7か所。林道は林道呉娑々宇線ほか2か所。公園は水分峡森林公園ほか3か所。その他は府中ポンプ場などであった。水道はみくまり三丁目14番街区6世帯(7月9日解消)で断水被害があった。※被害状況は、8月14日現在までに判明している被害

しかし、実は府中町での水害被害は今回が初めてではない。大正15年9月11日に当時の府中村では榎川が氾濫し、死者3名、負傷者不明、家屋流出26戸、倒壊101戸、流出田畑65.4ヘクタール、堤防決壊約6.3km、橋梁流出20か所。被害総額100万円越えの被害が出ている。現在、府中町えの宮公園内に「府中村水害記念碑」がある。これだけではなく、安芸府中史によると、過去の水害について記録されており、江戸時代にも度々洪水が起こり、河川が氾濫して大きな被害が出ていることが分かる。明治時代にも複数回洪水を経験し、堤防や道路が被害を受けている。また、大正時代の後も、昭和3年には洪水によって堤防200間が破壊されている。これらの歴史から、府中町では水害が繰り返し起こっていることが分かる。

府中大橋を渡って入る府中町の入り口に「ころび石の町」をテーマとしたオブジェがある。子どもたちは日々の生活の中で幾度となく目にしているが、当たり前すぎて、意識することはあまりないと考えられる。これは平成8年に開催された第51回ひろしま国体の雰囲気づくりや歓迎ムードを盛り上げるためにと作られ、国体が終わった後も、町のシンボルになるようにと考え平成8年10月に設置された。水分狭に「石ころび」という地名があり、そこにある「ころび石」が発掘の原点となっている。府中町は洪水のたびに「石ころび山」から「ころび石」が流れ、被害を受けてきたが、人々はその石を利用して石積等を作り、災害を克服してきた。府中町カルタは町内のカルタ大会でも親しまれている町内のスポットや建造物、町の雰囲気などについて書かれたカルタで、一部の子どもたちにはよく知られた存在である。その中でも「え」の札には「榎川 源辿れば 石ころび池」とあり、昔から榎川の上流から洪水のたびに大きな石が流れて水害が起きており、石ころび、という地名が付いたことを歌っている。

- ・地形
- ・社会福祉対応
- ・釜石の奇跡

#### 【指導観】

総合の学習指導要領で、第3章各学校において定める目標及び内容 第3節各学校において定める目標及び内容の取扱い(6)探求課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について配慮する事項では、ア「他教

科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること」について、歴史や地理的な見方から社会科の知識・技能、防災や環境の視点から理科の知識・技能を教科横断的に活用し、最終的に実生活に繋げることで対応させている。イ「思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること」について書く。①「課題の設定」としては、第一段階では災害の原因について、第二段階では災害時に自らが取るべき行動について設定する。②「情報の収集」としては、歴史資料などの文献調査、インタビュー調査などを行うよう設定する。③「整理・分析」では、収集した情報を生徒たちが自ら項目ごとに整理させる。この際、班ごとに活動を行う。

・導入…今までの意識を認識させる（災害は無いという意識、自分たちが行動を起こさなければという気持ちの低さ）

・歴史…繰り返されているものであることを意識する

・地形…地質などから災害が起りやすい地域であることを意識する

→意識・価値観の改革

・防災・今後…府中町は今回の災害を受けて警報が解除されても懐疑的疑い自ら動くことが出来るようになる。

共助の姿勢

→行動の改革

## 5. ESD との関連

### 【学習を通して育てたい ESD の視点】

- 「相互性」…昔から自然と町民が関わりあって生きてきたことを学び、これからも生きていくための方法を考える
- 「有限性」…何も対策しなければ、災害を甘く見ていれば、当たり前の日常はなくなってしまうことに気付く
- 「連携性」…若者同士、町政と町民が関わりあい協力していくことで、町をよりよくして行けることに気付き、自分の行動を変化させる
- 「責任制」…町内の若者として、災害時に自助だけでなく率先して共助していかなければならないという責任感を育てる

### 《学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力》

- 進んで参加する行動力
- 多面的・総合的に考える力
- みんなで協力する態度
- 疑問を持つ批判的思考力

### 《ESD で育てたい価値観》

- 世代間の公平

### 《貢献できる SDGs》

- 11（都市）住み続けられるまちづくりを

6. 展開の概要（全 15 時間）

次	時間	学習活動	指導内容（□留意点）
第一 次	1	<p>●府中町の水害の伝承に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府中町カルタをする</li> <li>・石ころびオブジェについて知る</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年夏の水害のニュースを見る</li> <li>・府中町が水害に強いか弱いか考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石碑を見る 過去にも水害があったことを知る</li> <li>・水害に対して疑問に思ったことや知りたいと思ったことを挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにとって身近だが、普段意識していないことに気付かせる</li> </ul> <p>□府中町カルタに出てきた「石ころび池」とリンクさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を流す</li> <li>・豪雨災害までの率直なイメージを引き出す</li> </ul> <p>□過去に災害があったイメージなのかまで引き出せるとよい</p> <p>□水害が繰り返している地域であることを意識させる</p>
	2	<p>●歴史を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸府中町史を読んで、過去にどのような災害があったのか、それに対してどのような対策が取られたのかを調べる</li> <li>・班ごとに情報収集し、まとめて発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班に時代別の災害に関する資料を用意し、災害が起こった時、場所、災害の規模、対策などについて調べ、まとめ、発表させる</li> </ul> <p>□安芸府中町史第一巻を資料として配布する</p>
	2	<p>●地形を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理院地図を使って航空写真を見比べて、どのような特徴があるか、変化しているかを調べる</li> <li>・地理院地図を使って昔の土地利用について調べる</li> <li>・安芸府中町史を使って、土地成分やその性質について調べる</li> <li>・最後に各班で発表し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班に分かれて調べさせる</li> </ul> <p>□安芸府中町史第一巻を資料として配布する</p> <p>□地理院地図を使って調べる班にはパソコンを用意する</p>

第二次	2	<p>●今の府中町の防災に対する取り組みについて調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の災害の際、どのようなことに困ったか、助かったかなどを挙げる。</li> <li>・防災マップを調べ、特に自分たちの校区について知る</li> <li>・町が出している防災政策に関する文書を読んで、分かりやすくまとめる</li> </ul>	<p>□町役場が、災害が起こる際に町民に危険を知らせたり、災害時に避難所などを設営したり、被災した地域の復興のための司令塔の役割を担っていたことに気付かせる。</p>
	1	<p>●府中町で災害対策本部を運営された方の話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーをお呼びして、前時までの学びを深める</li> </ul> <p>□前時までで曖昧だった部分などを積極的に質問させる</p>
第三次	5	<p>●水害を繰り返さないために府中町はどうしていくべきか、また、起きてしまった際、私たちはどう行動すべきか班ごとに考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災時の釜石の中学生の活躍について知る</li> <li>・水害発生時の行動宣言を各班で作成して、決めた理由と共に発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釜石の中学生についての資料を配布し、ビデオを視聴する</li> <li>・感想を引き出す</li> </ul> <p>□中学生は自らの判断で動かなければならないことを意識させる</p> <p>□公的な情報も絶対ではないことを意識させる</p> <p>□町内の共助に中心となるのは自分達であることを意識させる</p>

## 7. 参考

(1) 広島暮らし～広島交流・定住ポータルサイト～

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kouryuuteizyuuportalsite/>

(2) 府中町ホームページ

<http://www.town.fuchu.hiroshima.jp/>

(3) 安芸府中町史 第一巻

(4) 府中町カルタ

(5) 防災教育から生まれた『釜石の奇跡』一片田教授に聞くー